

兩生類

(1) 両生類相の概要

長崎市は平成の大合併により自然豊かな地域が多く加わり、市内に見られる動物相も豊富になった。しかし、絶滅危惧種の指定を受ける両生類は改訂前よりも増加傾向にあり、両生類の生息環境は悪化の一途をたどっている。

長崎市では、長崎県版レッドデータブックで指定している11種のうち、6種が生息している。今回、新たに指定された種はないが、県内各地より全種とも減少傾向が著しい。特に、トノサマガエルは長崎市内ではほとんど見られなくなっており、絶滅した可能性もある。カスミサンショウウオやニホンアカガエルも一部の地域でしか確認されておらず、その場所も年々減少している。長崎市内の水田は耕作放棄や圃場整備による乾田化が進んでいるため、アカハライモリだけでなく水田に依存する両生類は指定対象種以外でも減少傾向にある。ニホンヒキガエルは市内各地の山林で目撃されるが、産卵場所であるため池や水田がなくなっており、今後も減少傾向は続くと思われる。カジカガエルは外海町の河川だけに生息している。

(2) 両生類リスト

	科名	和名	県区分	環境省区分	ページ
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	アカガエル科	トノサマガエル	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	—	76
	サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	76
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	アカガエル科	ニホンアカガエル	準絶滅危惧 (NT)	—	76
	イモリ科	アカハライモリ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	76
	ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	準絶滅危惧 (NT)	—	77
準絶滅危惧 (NT)	アオガエル科	カジカガエル	準絶滅危惧 (NT)	—	77

トノサマガエル (アカガエル科)**絶滅危惧 I A類(CR)***Rana nigromaculata* Hallowell

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 畦別当付近や船石町の水田

県内 ; 長崎県の一部の水田

摘要

日本の水田を代表する大型のカエル。雄と雌で体色が異なり、雄は緑色で、雌は薄い茶色を基調としている。水田に生息し、産卵、幼生、冬眠も水田に依存している。全国的にも減少傾向にあり、県内でも多良山系や国見山系・雲仙山系の一部の水田でしか発見されておらず、長崎市内ではほとんど見られなくなった。

**カスミサンショウウオ** (サンショウウオ科)**絶滅危惧 II 類(VU)***Hynobius nebulosus* (Temminck et Schlegel)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 都市部を除く長崎市全域

県内 ; 県本土全域、五島列島、壱岐市、平戸市

摘要

雑木林に生息し、冬季に水田や水路に集まり産卵する。山際の水田や湧き水、ため池など少しの水場でも産卵を行うが、幼生が育つかどうかは疑問である。長崎市三ツ山のカスミサンショウウオは、シーボルトが日本動物誌で紹介している。都市部を除く市内全域に広く分布するが、確認場所や卵塊数は毎年減少している。

**ニホンアカガエル** (アカガエル科)**絶滅危惧 II 類(VU)***Rana japonica* Gunther

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 手熊町、相川町、東長崎地区、旧琴海町、旧外海町など

県内 ; 県本土全域、壱岐市、平戸市

摘要

体長5cm程度の赤っぽい色をした中型のカエル。山林に生育し、冬季に水田やため池で産卵。水田の放棄や乾田化、圃場整備により、産卵場所の確保が困難になっている。県下全域で減少しているが、特に長崎市内での減少が著しい。

**アカハライモリ** (イモリ科)**準絶滅危惧(NT)***Cynops pyrrhogaster* (Boie)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 旧琴海町、旧外海町、東長崎地区、相川町など

県内 ; 県本土全域、五島列島、壱岐市、平戸市

摘要

背面は黒く、腹面は赤い。河川・水田・池・水路などの広い環境に分布しているが、生息には1年中水場があることが必要で、乾田化された水田や三面張りコンクリートの河川では見られない。広く市内全域に分布するが、都市部や長崎半島では見られなくなった。



(3) 両生類

ニホンヒキガエル (ヒキガエル科)

準絶滅危惧(NT)

Bufo japonicus Temminck et Schlegel

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 長崎市内の山間部全域
県内 ; 県本土全域、壱岐市、五島列島、平戸市

摘要

山地や人家周辺の雑木林に生育し、冬季、産卵のために山中の池や山際の水田に集まる。初春には真っ黒の幼生が群れをなして泳ぎまわるので、非常に目立っている。長崎大学構内の人工池や都市部の自然の残っている地域でも産卵することがあるが、市内全域としては減少傾向にある。



カジカガエル (アオガエル科)

準絶滅危惧(NT)

Buergeria buergeri (Temminck et Schlegel)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 出津川、神浦川
県内 ; 県本土・五島列島の一部の河川

摘要

鳴き声が美しい。河川で産卵及び幼生時代を過ごし、河川周辺で生活しながら、河川近くで冬眠をする河川依存型のカエル。市内では旧外海町の出津川と神浦川にしか生息していない。比較的環境の改変が少ない場所に生息するが、河川改修等には注意が必要である。

